



# ツキノワグマよる 被害防止のために

人とツキノワグマの緊張感のある  
共存関係を目指して

県では富山県ツキノワグマ管理計画を策定し、本県における地域個体群の長期的にわたる安定的な維持及び人身被害の防止並びに農林業被害の軽減を図り、「人とツキノワグマ（以下：クマ）の緊張感のある共存関係」をはかることを目的としています。

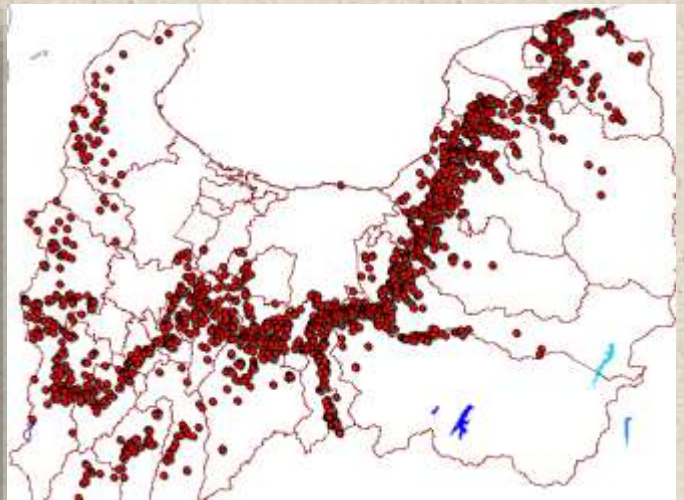
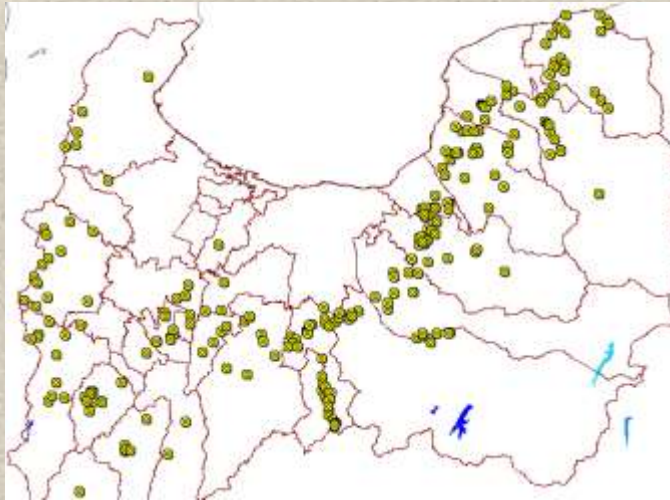
## 県内の出没状況

県内の山林に生息してるクマ

富山県の東部から西部にかけての山林に生息しており、山林などクマの生息域に人が入る場合はクマに対する準備が必要になります。また、秋期に堅果類などの実りがいい年はクマの出没が少ないのですが、悪い年は平野部までクマ出没することがあり、そのような年は特に注意が必要です。

豊作及び通常年（平成17、19、20、21、23年）

凶作年（平成16、18、22年）



## 季節による出没状況

季節ごとの注意点

クマは冬眠中に子を出産します。子連れのクマには特に注意が必要です。ゴールデンウィーク前後などに子育て中の親熊に襲われる事故が発生しています。また、初夏から夏期にかけ、クマの交尾期やまとまった採餌物の採りにくい端境期などにより通常クマが出没しない地域に出没することもあります。



秋期については、堅果類（ブナ、ミズナラなど）の凶作年は平野部へクマが出没する年があります。県では毎年、豊凶調査の結果から出没予測をしています。

# 人家周辺でのクマの痕跡

痕跡を見逃さない

県内において、秋期の堅果類の凶作年は、地域によってはクマが人家やその周辺に出没し、カキの実を採餌することが多く、各地域でカキの実がクマの誘引物となっています。その他、クリやギンナンの実を採餌するため、出没することもあります。クマが来たカキの木には爪痕やクマ棚が残り、その周辺に糞や足跡などの痕跡が確認されることがあります。これらの痕跡が残る前に、誘引物を除去するようにしてください。



クマの糞

クマの爪痕

カキの木に残るクマ棚

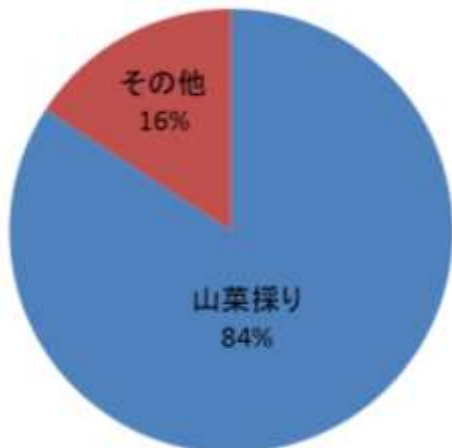
**誘引物(カキなど)の除去の徹底を！**

## 季節ごとの注意点～春期編～ クマに対する備え

### 山菜採りの方は特に注意が必要！

山菜採りで、人がクマの生息地（山林）に入る時期であり、特にゴールデンウィーク期間中やその前後などでクマによる人身被害が多い。山菜採りの方は道なきところを山菜を求めて歩くため、偶発的にクマと出会う可能性があります。また、子連れのクマの場合、鈴やラジオを鳴らしていても、襲われている事例もあるため、人がクマに対する準備をする必要があります。

鈴やラジオなどを鳴らすことはもちろん、クマ撃退用のスプレーの携行や頭部や顔面を守るためのヘルメットの着用、非常用にナタなどの携行もあればいいと思われます。



クマによる人身被害の原因（4～5月）



クマに対する備え

## 季節ごとの注意点～夏期編～ 河畔林や河岸段丘の林を移動

**やや予想を超えた地域（河畔林や河岸段丘の林など）に出没することも！**

初夏から夏期にかけ、クマの交尾期やまとまった採餌物の採りにくい端境期などで、通常クマが出発しない地域に出発することがあります。河川敷のヤブや河畔林や河岸段丘の林などを移動し、より低標高地域へ出発することがあり、近隣での新しいクマの目撃・痕跡情報の把握に努めてください。

また、夏期にはミツバチの巣がクマの誘引物となることもあり、ミツバチの巣のある山際の人家などでは早めの対策が必要です。



河川敷のヤブや河畔林などを移動



河岸段丘の林などを移動

## 季節ごとの注意点～秋期編～ クマの大量出没年は注意！

**秋期は堅果類の豊凶によりクマの出発状況が異なるが、誘引物の除去の徹底を！**

秋期は堅果類の豊凶の影響を受け、クマが平野部まで出発する年があります。特に、ブナとミズナラが同調的に凶作の年は人家周辺までクマが出発し、クマによる人身被害が増加します。クマの大量出没年は庭にあるカキの実の早めの除去を徹底し、人とクマとの遭遇を減らす必要があります。なお、人里でのカキの実などの誘引物の除去の順番は、まず家の庭にある木、集落内の木そして周辺の農耕地にある木の順に作業するようにします。また、そのような年は玄関先でも注意が必要であり、外出時は周囲を確認してから外に出るようにしてください。



ブナの実



ミズナラの実



早めにカキの実の除去を行う。

近年、里山地域でもクマの生息が確認されていることから、山際の集落ではクマの情報に注意すると共に、誘引物の除去に取り組んでください。

## クマとの偶発的な遭遇を減らす できることから取り組む

県内では、特にクマの大量出没年の秋期に河川敷や河岸段丘崖の林などを移動し、より平野部へ出没する事例が増加します。そのため、そのような年を中心に、クマとの偶発的な遭遇を減らすために、人家周辺のヤブなどを減らすことが必要です。もちろん、誘引物（カキの実）の除去の徹底もあわせて行いましょう。



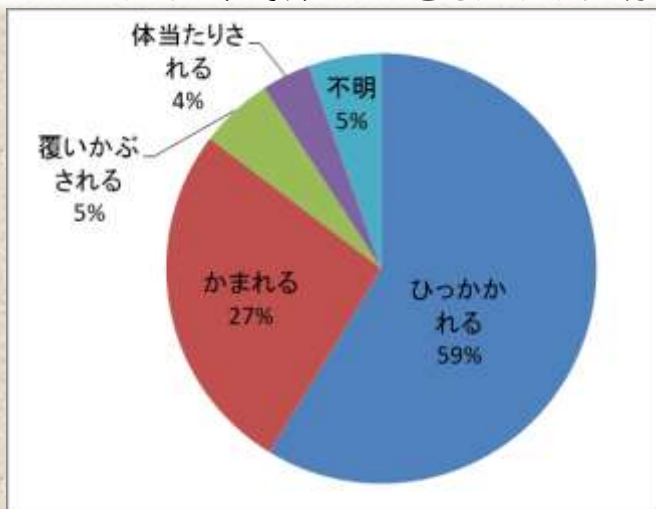
人家周辺や敷地内はヤブを減らし見通しのいい環境作りを！

## クマによる人身被害の発生状況 県内の事例より

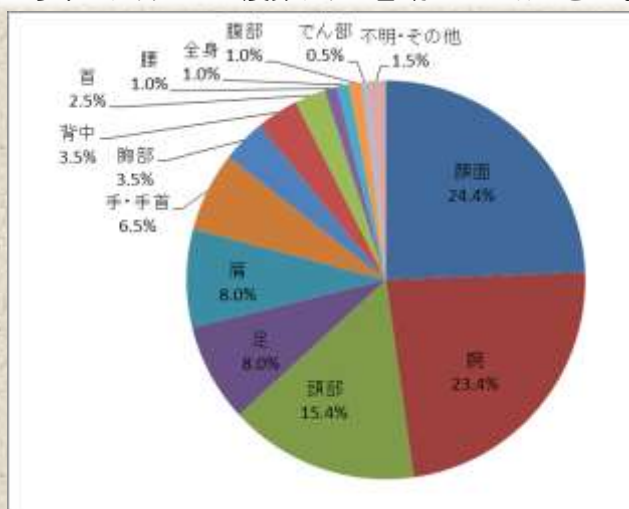
県内のクマによる人身被害の事例から分析すると、人身事故の発生した時期や時間、場所などは下記のような状況です。

- ・人身被害の発生時期は10月が一番多くなります。これは、クマの大量出没年に秋期に多く人身被害が発生していることが影響しています。ただ、通常は山菜採りの方がクマに襲われることが多く、5月に多く発生しています。
- ・人身被害の発生時間帯は春期～夏期にかけては午前中、秋期は午前中でも早朝にも多く発生しています。
- ・多くは山林で人身被害が発生しているが、クマの大量出没年の秋期は人家や田畑などで被害が発生しているほか、100m以下の低標高でも多く被害が発生しています。

もしものために、野外ではできるだけ1人で行動せず、2人以上の複数人で活動してください。



県内でのクマの攻撃方法（昭和45～平成29年）



県内でのクマの攻撃箇所（昭和45～平成29年）

クマを避ける配慮と同時に、遭遇した際に被害を小さくする備えをする必要があります。過去の事例から、頭部や顔面などへの攻撃が多いため、ヘルメットを着用するなど、被害の低減に努める必要があります。また、襲われる瞬間は防御姿勢をとり、顔面などに攻撃を受けないよう注意してください。その他、クマ撃退スプレーを携行するなど、より積極的な防御が必要です。（子連れの場合、鈴やラジオを携行していても、襲われた事例があるため。）